

緊急事態宣言再び…

昨年10月末に始まった新型コロナウイルス感染症の第三波は、11月以降も拡大を続け、未だ終息の兆しが見えません。感染予防・拡大防止の取り組みを引き続き徹底していきましょう。

自分と大切な人を守るために

TAKE OUT



STAY HOME

一人ひとりができることを

愛知県緊急事態宣言措置

不要不急の行動の自粛



生活に必要な場合を除き
外出自粛を徹底（特に20時以降）

県をまたぐ不要不急の移動自粛



特に首都圏1都4県
関西圏2府1県・福岡圏

高齢者等への拡大防止



重症化しやすい高齢者等に配慮
リスクの高い施設利用を回避

基本的な感染防止対策の徹底



感染しない・させない
大人数の飲食等を自粛

営業時間短縮と
ガイドラインの徹底



飲食店等20時
酒類は19時まで

テレワークの徹底等



出勤者数の7割削減を目指す
テレワークの徹底

職場クラスターを防ぐ
感染防止対策



職場・寮での観戦防止対策の徹底
特に休憩室等の居場所の切り替わりに注意

イベントの開催制限等



人数上限5000人以下かつ
収容率50%以内等

イルミネーション等の
早めの消灯



20時以降のネオン消灯
イルミネーションは早めに

学校等での対応



健康観察・感染防止対策を
徹底しながら教育活動を継続

目標と成長

森 直樹（代表取締役社長）



2021年も明け、寒い日々が続いております。趣味のランニングですが、今年目標に掲げた「100マイル（160キロ）完走」は4月に開催の「ウルトラトレイル・マウントフジ」という大会にて挑戦する機会が出来ました。この大会、100マイル（160キロ）、累積標高は7,500メートル、そして制限時間は46時間と、数字にするとなかなか圧倒されますが残りの期間で十分に準備し、また社内報紙面でもいい報告ができればと思います。5年前より始めたランニングですが、目標をどこに置くかで取り組み方も変わり、またその成果もそれなりに付いていきます。走り始めた当時は、このような大会に出ることを考えていたわけではありませんが、参加する大会の距離を伸ばしていく過程で、目標として意識するようになりました。森松でも長期の休み毎に短期・長期の目標を振り返って見てもらっていますが、目標を立てて終わるのではなく、目標に向きあい、進んでいく。その行程を自ら作り進んでいくことが出来れば、最終的に目標まで到達出来なくても、そこまでの過程は自身の成長に大きく貢献するでしょう。全国11都府県では非常事態宣言が行われ、飲食店に対する営業時間短縮、外出自粛の要請、テレワークの推進が行われています。基本的にはこれまで通り、生活面での自身の行動についても十分な配慮が求められます。森松でも更に感染対策の強化を進め、リスク軽減に努めております。もちろんこの宣言期間以降も、そのような配慮は変わらず必要になるかと思いますが、一段と自分自身にも慎重な行動を心がけたいと思います。

奈良観光 (西国三十三所巡礼⑤)

村田 恒夫 (総務経理部)



11月中旬、紅葉を楽しむのと一年ぶりの西国三十三所巡礼(第六番札所の南法華寺、第七番札所の岡寺、第八番札所の長谷寺、番外の法起院)を兼ねて奈良県へ行ってきました。最初に奈良県の中でも、歴史的建造物周辺の紅葉が美しい奈良公園で紅葉を楽しみ、東大寺の大仏殿を参拝しました。東大寺といえば、大仏殿にポッカーリと穴ポコが空いた、摩訶不思議な柱があります(大仏さんの鼻の穴と同じ大きさの柱の穴)。この柱の穴をくぐり抜けると「厄除け」のご利益があると信仰されていますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当分の間、柱の穴くぐりは中止となっていました。このようなところにも新型コロナウイルス感染症の影響がでているのだと感じました。大仏殿を後にして東大寺参道にある東大寺ミュージアムに入館しました。長い歴史の中で伝えられてきた仏像・絵画等が展示されていますが、特に、天平彫刻の最高峰とされる国宝「四天王立像(広目天・多聞天・増長天・持国天)」は美しく迫力がありました《この四天王立像は、東大寺ミュージアムにて、令和2年7月23日からおよそ3年間の特別公開です》。その後、奈良奥山ドライブウェイにて若草山へ向かいました。若草山の駐車場に車をおいて3分ほど歩くと山頂に到着。若草山全体に芝が生い茂っているの、シカがたくさんいて奈良の自然と眺望を楽しみました。今回、西国三十三所巡礼で一番印象に残ったのが長谷寺です。長谷寺の登廊は、全399段の緩やかで長い石段で、それなりに体力は使いますが本当にいい雰囲気でした。又、大きな観音様の足に触れる貴重な体験もすることもできました。岡寺(厄よけ霊場)では、新型コロナウイルスの感染拡大の終息を願った祈祷札を無料で頂きましたが、祈祷札の効果で新型コロナウイルス感染拡大が早期に終息し、感染の心配なく西国三十三所巡礼が出来るようになればと願っています。



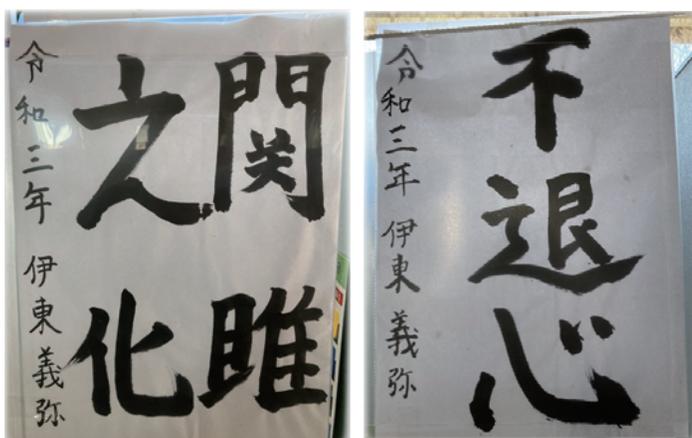
この四天王立像は、東大寺ミュージアムにて、令和2年7月23日からおよそ3年間の特別公開です。その後、奈良奥山ドライブウェイにて若草山へ向かいました。若草山の駐車場に車をおいて3分ほど歩くと山頂に到着。若草山全体に芝が生い茂っているの、シカがたくさんいて奈良の自然と眺望を楽しみました。今回、西国三十三所巡礼で一番印象に残ったのが長谷寺です。長谷寺の登廊は、全399段の緩やかで長い石段で、それなりに体力は使いますが本当にいい雰囲気でした。又、大きな観音様の足に触れる貴重な体験もすることもできました。岡寺(厄よけ霊場)では、新型コロナウイルスの感染拡大の終息を願った祈祷札を無料で頂きましたが、祈祷札の効果で新型コロナウイルス感染拡大が早期に終息し、感染の心配なく西国三十三所巡礼が出来るようになればと願っています。

抱負

伊東 義弥 (特販部)



皆様、新年あけましておめでとうございます！森松では毎年仕事始めに書初めをします。書初めは仕事のこと1枚、プライベートのこと1枚の計2枚を書きます。私の今年の抱負は、プライベートは「関雎之化」です。「かんじょのか」と読みます。意味は、夫婦で仲が睦まじいこと。家庭が平和なこと。という意味です。出張族の私ですが、コロナの影響で家にいる時間がものすごく増えて、家族の時間、妻との時間も増えました。今年もまだまだコロナの影響が続くそうですので、夫婦仲良く、家庭円満になるように努めていきたいと思えます。仕事の抱負は、「不退心」「ふたいしん」です。この言葉は高校時代に担任だった先生から教えてもらった言葉です。どんな大きな困難や壁に直面した時にでも自分の決めた道であれば決して退かず、前に進んでいくという意味です。本当の由来は仏教の教えからきているそうですが、私はこの先生の言葉の意味



で抱負にしました。昨年は海外進出の年として動いていましたが、早々にコロナが流行し、全く思うように進みませんでした。今年もまだまだ海外出張なども行けずZOOMや電話などでのやり取りしかできませんがそれでも前に進み、退かないという思いで取り組んでいきたいと思えます。この2つの抱負を胸に今年は頑張っていきます。皆様、本年も何卒よろしくお願い致します！

愛と救済

大石 耕平 (東京オフィス)



愛は祈りだ。僕は祈る。過日。休日の早朝7時に車を飛ばして家を離れることになった。ある朝の食卓において、妻から数々の欠点、失態を列挙されたあと、「私のもっと楽しくて文化的な生活を送りたい」と言われたからである。連日の家庭内残業。イビキ。歯ぎしり。たまーにお客様と伺う夜のお店。そのような些細な失点をクローズアップして何になるのか、とにかく不満らしい。一言でいえば甲斐性がないらしい。「ふん。しゃらくさい」。いわれない非難と否定を受けた僕は激昂し、イビキで腫れてしまった喉で「わかった。お願いだから別れないで。1人にしないで。1人で生きていくのは寂しくてつらいから。1人で死んでしまう動物もいるらしいよ。よし。文化的で楽しい生活を送ろう。文化人の夏といえばリゾート。でも1日中リゾートは正直厳しい。まずは朝だけ。週末からリゾートな朝を送れるよう務めようじゃないか。」と強気な姿勢を打ち出し、有言実行の結果、休みの日の早朝からハンドルを握るはめになったのである。しかし遠方のリゾートへ行けば行くほどガソリンを消耗し僕の小遣いは減る。ツライ。悲しい。僕は自分の経済を守るために、助手席に座る妻に「不思議だね。意外と近くにリゾートってあるものなんだね。カーナビによると所要時間30分だって。慌ただしい生活の中で見落としてしまいがちだけどね、僕はねそういう日常の片隅に埋もれている宝物を見つけて生きていきたいと思うんだ。僕が全人類数十億人のなかで君という宝物を見つけたようにね」と言った。そのときの涙を湛えて潤んだ妻の瞳を、僕は一生忘れないだろう。と同時に、そのとき耳にした「眠い」という妻のぼやきを僕は忘却の彼方に追いやった。目的地は湘南にあるとあるカフェ。なぜリゾート感を求めてそのお店にしたのかというと、独身時代に懇ろにしていたとある嬢が「リーズナブルでリゾート感超あっていい感じなのお〜」と絶賛していたからだ。当該嬢は僕が知らぬ間に忽然と姿を消してしまった。もしかしたら。消えた嬢を見つけれられるかもしれない…そんな淡い期待を抱いて僕はとあるカフェに向かったのである。男三十七歳。紳士な大人の男ほど陰の部分があるものだ。許してほしい。カフェに到着するも、リゾート感を味わってもらいたい妻が付いてこようとしない。妻は日射しが強すぎる、とだけいうと室内の無難な席に向かおうとする。手を伸ばせばすぐそこに文化人らしいリゾートがあるのに、なぜ室内なんだ。楽しい生活を送りたいと言ったのではないかと詰め寄ると、すると妻はテラス席を指し示し、あなたあそこに行けるの？よく見てみなさいよ、という。花のように咲いた白いパラソルの下にいる人たちを見た。洒落た花柄のシャツ。ブランドもののバッグ。イケてる麦わら帽子。パッチリなメイク。ちょい悪なヒゲ。iPad。イケてるサングラス。圧倒的なリゾート感、キてる感が人々から放出されていた。おそらく日の出前にメイクを済ませて家を出立したのだろう。彼らのリゾート感の正体はまさに気合いであった。早朝とはいえ夏の強い日射しのなか、熱せられた空気の中で汗を滝のように流しながらも、皆何事もなかったかのよう涼しげにサンドイッチやパスタを食べている。僕らはどうだ。そこに気合いはあるか。覚悟はあるか。リゾートを生み出してやるという決意があるか。起床して40分で現着。眉毛を描いてない妻は四谷怪談。僕はヨレヨレの白Tシャツにユニクロの短パン。両手にはけたたましく元気いっばいの2人の子供。妻は諦念の表情を浮かべ、もう少し空気読もうよ、場違いなんだよと僕に教えてくれていたのである。カフェで出されるトーストは葉山トーストというご当地のものを使っているそうである。そのせいだろうね、ピザトーストは見た目の重厚さに反して、食感は軽く、トーストからはほのかな甘みが感じられ、朝に食べても胃もたれがしない。リゾートは場所ではなくそこに向かう人々の気合いによって形成されるらしい。僕はリゾートでのブレックファストを甘くみすぎていた…反省しきりの僕に「ねえ」と妻が言う。「私たちそろそろセイサンしないといけないと思う」清算？精算？生産？すべてが離婚に繋がるような数多のセイサンが僕の頭の中を巡った。葉山トーストのほのかな甘さだけが苦々しい現実にいる僕を救済してくれている気がした。

香嵐溪

西垣 浩司 (製造部)



今年、母親と息子で香嵐溪（こうらんけい）と足助八幡宮へ行ってきました。香嵐溪は景色も綺麗だったしオールシーズン楽しめる良いところですが、本当にガラガラで、川沿いの道、山中の遊歩道、どこを散歩しても人とのすれ違いはごく稀で、全く他人に気を使う事なく、気ままに回って来ることが出来ました。父親のこともあり母親にとっては少しリフレッシュにはピッタリの時間でしたと思います。五平餅、ランチのお店は営業していますがどこも大変空いていました。足助八幡宮まで足を延ばして足助八幡宮七草粥頂きに行き、来場者は八幡宮でお参りをしてから、出入り口で係員による手指の消毒を行い、整理券と使い捨て容器に入ったお粥と梅干しとお箸をもらいます。七草の材料を提供した方や温かい炊き出しを行っていたのは、AT21 倶楽部の皆さんとあとは足助の観光ボランティアガイドさん達でした。コロナ禍でしたが寒風の中で味わう、境内に間隔を空けて置かれた小さい椅子で食べる方や家や車で食べられる方がビニール袋に入れてテイクアウトする方もみえました。あったかいお粥は冷えた体に染みわたり、特別に美味しく感じました。香嵐溪と足助八幡宮に続きコロナ対策の新しいやり方で活動する良いスタートが切れたのではないかと思います。矢作川支流巴川がつくる渓谷、香嵐溪は、紅葉やカタクリの花などが有名。香積寺11世の三栄和尚が、江戸時代の寛永11年に植樹したことがはじまりとされ、現在では東海随一の紅葉の名所として約4000本のもみじが彩りを見せます。足助川をはさんで、かつての宿場を思わせる古い町並みの散策も出来ますので、次回は家族で出かけて見ようと思います。





南雲 彩 (経理部)

雲南省だより No.1

中国の様々なお正月

日本とほぼ同じ面積を持つ中国雲南省では、実に 25 の少数民族が独自の文化を守りながら暮らしています。そのため、お正月の期間も民族によって様々です。例えば、イ族が持つ太陽暦は一年が十ヶ月であるため、お正月は 11 月中旬となります。一方で、タイ族のお正月は 4 月中旬となります。どの民族のお正月も大体が秋の収穫が終わった後から、春先までの間に行われます。また、祭司の占いでお正月の日を決める民族もあるようです。少数民族のお正月では、一年の災いを取り除き、無病息災、雨天順調などのお祈りを行います。お祈りをする事でより神様に近づけるため、彼らは竹製の大型ロケット花火を打ち上げる他、「孔明灯（三国時代にこの地を訪れた諸葛孔明を偲んで名付けられた）」またの名を「天灯」を空に飛ばしたりします。そして、宗教的な行事以外では龍舟競争、闘牛、競馬を楽しむ他、艶やかな民族衣装を身に着け、歌や踊りをしてお祭りを楽しみます。若者たちはアーチェリー、レスリング、ブランコ、琴の演奏や踊りに動きます。そして、人生のパートナーと出会うの場としてチャンスも多いようです。民族によってお正月に行う特別な行事もあります。ナシ族とブミ族は、13 才になる少年少女の成人式をお正月に行います。ペー族とブーラン族は、お正月の夜明けに誰が一番早く湧き水を汲めるかを若い男女らが競争します。イ族とアチャン族は女性に対して 1 年の苦勞を勞う事として、お正月の間は男性が台所に立つといった優しい慣習もあるようです。そして、お正月でも豊富な食べ物以外に欠かせないのは日本と同じ、お餅です、お餅作り大会も開きます。この様な中、少数民族の特別な行事で一番有名なのはタイ族の水かけ祭りです。参加者は全員頭の先から足の先までびしょびしょになりながら、お互いに水をかけ合います。かけられた水が多ければ多いほど、福を得るとされています。



少数民族のお正月行事は多岐に亘りますが、根本は五穀豊穡・無病息災・雨乞い等といった宗教的な目的です。神秘的で陰鬱なものではなく、情熱的で開放感のある行事です、機会があれば、雲南少数民族のお正月をご覧ください。ただ、雲南省の観光開発とともに、近年は観光色が強くなってきたので、本物の雲南少数民族のお正月行事は山奥の村へ行かないと見られないかも知れません……。

もちつき

清水 由依 (特販部)



毎年、年末年始は家族で私の実家である宮崎に帰省していましたが、今回はコロナで断念しました。残念だなと思っていたら友人から餅つきをしようと声をかけてくれたので感染対策をとりながら餅つきをしました。前日にもち米と杵、臼の下準備をして当日、もち米を蒸し始めます。子供たちも幼稚園で餅つき経験はあるものの過程を見るのは初めてなので興味津々の様子でした。蒸したもち米をある程度潰し、いよいよつく作業に入ります。「僕もやるー！！」と張り切る息子たち。重い杵によるよろしながらもお父さんに手伝ってもらいながら、よいしょ！よいしょ！と一生懸命頑張っていました。つきたてのお餅を嬉しそうに手に取り顔にも体にも頭にも粉をつけ頬張っ



ていました。つきたてのお餅は格別です！！！！きなこ、あんこ、大根おろし、しょうゆ海苔まきなどいろいろな味付けで楽しみました。美味しくて美味しくてみんな食べる手が止まりません。準備やつく作業はかなり大変ですが、子供たちのニコニコ笑顔と頑張る姿が見れて大人たちの筋肉痛も飛んでいきました。なかなか出来ない体験をさせてもらって感謝。いい思い出になりました。